

学生の音楽力と保育者養成

— 学生の音楽経験に関する調査より —

小川 宜子・高御堂 愛子
木 許 隆*

要 旨 本年度、2短期大学の1年生147名に対し、入学前の「音楽経験」と「音楽認識度」調査を行った。その結果、学校教育の実情と学生の色々な問題点が表出した。特に大多数の学生は、歌の覚え方をMDなどの機器や先生、友達から聴いて覚えるという極めて受動的であった。将来、学生が、子どもと一緒に歌ったり、演奏したり様々な音楽活動を通して音楽の楽しさや喜びを伝えることは、受身では困難である。そのためには、保育実践に必要な音楽の知識や技能の習得である。その基本となる楽譜の知識「読譜力」の習得が必要不可欠である。つまり学生自らが楽譜を読み、弾き歌う技能の獲得こそが、重要である。そこで「基礎音楽」「音楽理論」の授業では、「歌」や「リトミック」などを取り入れ「楽譜」を読む力を向上させた。その結果10月の調査では、自分で「楽譜を読んで」覚え弾き、歌うという学生が大変多くなり、学生の意識に顕著な変化が見られた。

abstract

“Music experience” and “rate of music awareness” of 147 freshmen of two junior colleges were surveyed. Most students were so passive in learning songs that they would have difficulties in conveying the pleasure of music to children. They should develop their music reading ability. Therefore, the “basic music” and “music theory” classes introduced “singing” and “eurythmics.” Follow-up survey revealed a sharp increase in the number of students who could read and learn music by heart, play instruments and sing.

はじめに

筆者達は、「全国大学音楽教育音楽学会中部地区学会」月例研究会において、平成3年度より「感性豊かな保育者の育成」をテーマに「保育者の感性を考える」「基礎技能（音楽）と保育内容（表現）の関連」「音楽授業の構造を考える」「保育者養成における音楽教育の原点を探る」等保育者養成校の音楽教育はどうあるべきかについての研究に取り組んできた。

それは、今日的な課題としての「多様化・複雑化する保育・子育てに対応可能な実践力」の習得のための音楽教育のあり方として、授業内容の検討、教材の研究である。

近年の保育者養成校に入学する学生は、音楽経験は多様化し、ピアノの経験が無い学生や、人前で歌ったり演奏などの表現活動が苦手な学生が見受けられるようになった。特に1年生の基礎技能の授業では、楽譜に階名を記入する学生が、さらに後期に入って

も書きこんでいる学生が多く見られる状況である。

また、人前で表現をすることを多くの学生は苦手としているが、カラオケなど集団での活動では、活発に表現をしている。このような表現することが苦手とされる原因として、学生のコミュニケーション力の低下が考えられる。

それは、子どものころから室内でコンピュータやゲームなどの機器が遊び相手であって、メールで会話をするなど人との関わりが減少したためである。

平成18年度には、厚生労働省保育士養成課程等検討委員会から「今後の保育士養成課程等の見直しについて」の通知が各養成機関に出された。その内容は、「少子化や核家族化の進行、女性の社会進出の本格化、就業形態の多様化、地域の子育て機能低下など、近年の児童を取りまく家庭や地域の環境は、著しく変化している。このような環境の変化は、児童福祉サービスに係る需要の増大や多様化・高度化をもたらしており、これにともない児童福祉の現場や児童福祉サービスの利用者からは、専門性が高く、

* 中京短期大学

かつ、多様なサービスに対応することのできる資質の高い保育士の養成が求められている」とある。

子どもをとりまく環境の変化に対応するためには、豊かな感性をもって子ども達と楽しく表現活動でき、保育実践に必要とされる「歌の伴奏力」「即興的な演奏力」の育成が重要である。そのために、学生がどのような音楽経験や音楽観を抱いているかを把握することが必要と思われる。

そこで、学生の「音楽力」に視点をおいて、今後の保育者養成校としての音楽教育のあり方を探るためにアンケート調査を実施した。

アンケートの内容は、保育者養成校へ入学までの「音楽経験」と「読譜方法」についての認識度を把握するための調査である。調査対象校は、保育者養成短期大学2校の幼児教育学科と保育科の1年生である。

本調査は、全国大学音楽教育学会中部地区学会月例研究会で検討し作成した「保育者養成校学生の音楽経験について」の調査用紙に基づき実施した。

I 調査方法

- 調査時期：第1回 平成19年6月上旬
第2回 平成19年10月上旬
- 調査対象：○短期大学幼児教育学科第1部1年生77名、C短期大学保育科1年生70名
- 調査方法：○短期大学「基礎音楽」、C短期大学「音楽理論」の授業においてアンケート用紙を配布し回収
- 調査票：全国大学音楽教育学会中部地区学会作成による「音楽経験および認識度調査」を使用（質問紙は資料一覧に掲載）
- 調査数：○短期大学幼児教育学科第1部1年生回答数77名、C短期大学保育科1年生70名
合計147名 回収率100%

II 結果と考察

本研究は2回のアンケート調査を実施した項目のなかで重要であると思われるものを取り上げた。A. 第1回アンケート調査では、学生の「入学前の音楽経験」と「読譜力」、「歌の覚え方」に関する項目を取り上げ、入学前の音楽環境と楽譜に関する認識力、学生の基礎技能力の調査を考察した。また、B. 第2回アンケート調査では、半年間「基礎音楽」「音楽通論」を受講した結果と学生の音楽に対する

意識の変化を考察した。

A. 第1回アンケート調査

アンケート項目は以下の通りである。

- ①学校（小学校・中学校・高等学校）での学習内容
- ②短期大学入学前のピアノレッスン経験の有無
- ③ピアノの習熟度
- ④楽譜の読み方を覚えたところ
- ⑤学生の読譜に関する認識度
- ⑥歌いたうたの覚え方
- ⑦学校で学習したうたの覚え方
- ⑧学校行事として合唱の発表会やコンクール等で歌ったうたの覚え方

上記の8項目を下記の3分野に分けて報告する。

- 1 学生の入学前の音楽経験（①、②）
- 2 楽譜の学習方法（③、④、⑤）
- 3 うたの習得方法（⑥、⑦、⑧）

1 学生の入学前の音楽経験

（1）学校教育で受けた音楽の認識度

表1は学校（小学校・中学校・高等学校）の音楽の授業で何を学んだか認識度を調べたものである。7つの選択肢を設け、学生の意識の中でよく学んだ内容順に回答を求めたものである。

表1 学校の音楽の授業で学んだ内容

対象 順位	歌・合唱		楽器の演奏		鑑賞		音楽の歴史		音楽理論		創作		その他	
	総数147人 (人数)	総数147人 (比率)	総数143人 (人数)	総数143人 (比率)	総数136人 (人数)	総数136人 (比率)	総数84人 (人数)	総数84人 (比率)	総数53人 (人数)	総数53人 (比率)	総数37人 (人数)	総数37人 (比率)	総数4人 (人数)	総数4人 (比率)
第1位	142	97%	2	1%	2	1%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
第2位	4	3%	97	68%	32	24%	11	13%	2	4%	0	0%	1	25%
第3位	0	0%	33	23%	87	64%	9	11%	6	11%	3	8%	0	0%
第4位	1	1%	8	6%	14	10%	45	54%	18	34%	8	22%	1	25%
第5位	0	0%	3	2%	1	1%	11	13%	17	32%	18	49%	0	0%
第6位	0	0%	0	0%	0	0%	8	10%	9	17%	8	22%	0	0%
第7位	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	50%

一番印象深く学んだものは「歌・合唱」の147名中142名（96.6%）である。次いで、第2位「楽器の演奏」143人中97名（67.8%）、第3位「鑑賞」136人中87名（64.0%）、第4位「音楽の歴史」84人中45名（53.6%）、第5位「音楽理論」53人中18名（34.0%）、第6位「創作」37人中18名（48.6%）、第7位「その他」4人中2名（50.0%）という順であった。

142名もの学生が、学校の音楽の授業で「歌・合

唱」を学んだと答え、歌うことが音楽の授業での中心活動であったと思われる。続いて「楽器の演奏」を97名の学生が取り上げている。約7割の学生が音楽の授業で何らかの楽器に触れ親しんだという経験を持ったと理解できる。以下、「鑑賞」の87名、「音楽の歴史」の45名とあるが、やはり「音楽理論」の18名、「創作」の18名と著しく意識が低くなっている。以上の結果から、学生は「音楽理論」のような授業内容には苦手意識が強く、反対に自身の身体を使って能動的に表現することができる音楽活動、つまり、うたや合奏などが好きであるということが理解できる。学生達が学校教育で受けた音楽の認識度が、この調査からおおよそ伺い知ることができる。

次に、保育者を目指し入学した学生の音楽経験と音楽的技能を有しているかについての実情を把握する。

(2) 短期大学入学前のピアノレッスン経験の有無および習熟度

表2 ピアノ経験

経験	比率	人数(人)	比率(%)
			147
あり		129	87.8%
なし		18	12.2%

表2は、2短期大学の学生147名に入学前のピアノ経験を聞いたものである。総回答者147名中の129名(87.8%)の学生がピアノ経験を有し、経験のない学生が18名(12.2%)であった。

表3 ピアノの習熟度別

習熟別	比率	人数(人)	比率(%)
			147
ピアノ経験なし		18	12.2%
バイエル程度		81	55.1%
ブルグミュラー程度		22	15.0%
ソナチネ程度		13	8.8%
ソナタ程度		13	8.8%

表3は、学生がどのようなピアノレベルであるかを設問した結果、「経験なし」の初心者は12.2%、「経験あり」の学生の全体比は、バイエル程度の初級者が55.1%であった。また、ブルグミュラー程度の中級者15.0%、ソナチネ・ソナタ程度の上級者は各8.8%であった。初心者や初級者の学生は約7割という結果であった。

2 楽譜の学習方法

(1) 楽譜の読み方を覚えたところ

表4 楽譜の読み方を覚えたところ(複数回答)

No.	対象 場所・方法	全体 147人		ピアノ習熟度別									
				経験なし 18人		バイエル 81人		ブルグ 22人		ソナチネ 13人		ソナタ 13人	
		(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)
1	小学校の授業	36	24%	9	50%	21	26%	3	14%	2	15%	1	8%
2	中学校の授業	41	28%	5	28%	25	31%	4	18%	2	15%	5	38%
3	高校の授業	22	15%	4	22%	8	10%	6	27%	1	8%	3	23%
4	部活	81	55%	6	33%	63	78%	4	18%	5	38%	3	23%
5	習い事	93	63%	6	33%	41	51%	21	95%	13	100%	12	92%
6	友達に教えてもらう	14	10%	2	11%	10	12%	0	0%	0	0%	2	15%
7	独学	3	2%	1	6%	1	1%	0	0%	0	0%	1	8%
8	その他	4	3%	2	11%	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%

表4は、学生に主として楽譜をどこで覚えたかを「小学校の授業」「中学校の授業」「高等学校の授業」「部活」「習い事」「友達に教えてもらう」「独学」「その他」の8つの選択肢を設け設問した。(複数回答可)また、この表4は、「全体」と「ピアノ習熟度別」で集計した。そこで、全体の項を比率の高い順に挙げると、147人中93人(63%)の「習い事」が第1位、次に、81人(55%)の「部活」が第2位に学んだとする比率が高く、「小学校・中学校で学んだ」とする学生がそれに比較すると低くなっている。学生は楽譜を読むことを「学校教育の中」でなく「習い事」で覚えたと認識していることが理解できる。これを、ピアノ習熟度別で比較してみると、レッスン経験がある「バイエル程度」の学生は、第1位に「部活」(78%)、第2位「習い事」と挙げており、ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ程度の学生は「習い事」を第1位に取り上げている。これらから分かるようにレッスン経験のある学生の習熟度が高くなるほど「習い事」で学んだとする比率が高くなっている。

反対にピアノ未経験者の学生は、部活・習い事より小学校・中学校の授業で学んだとの比率が高くなっている。この事実は、「音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い豊かな情操を養う」という教育目標を持った学校教育の役割が如何に大事であることを示している。しかし、この表4からは、学生が「読譜」についての意識・印象は実際にどの程度の読譜力と理解力があるのかはこの表からよく分からない。

そこで、次に学生自身がどの程度の読譜力を持ち合わせているかを5段階に設問し回答を求めた。

(2) 学生の読譜に関する認識度

表5 読譜に関する意識

No.	対象 読譜力	全体 147人		ピアノ習熟度別												
		人数	比率	経験なし 18人	バイエル 81人	ブルグ 23人	ソナチネ 13人	ソナタ 13人	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1	ほとんど読めない	17	11.6%	6	33.3%	7	8.6%	2	9.1%	0	0.0%	2	15.4%			
2	あまり読めない	12	8.2%	4	22.2%	6	7.4%	1	4.5%	1	7.7%	0	0.0%			
3	少し読める	34	23.1%	4	22.2%	24	29.6%	6	27.3%	1	7.7%	3	23.1%			
4	わりに読める	69	46.9%	3	16.7%	37	45.7%	14	63.6%	11	84.6%	4	30.8%			
5	かなり読める	15	10.2%	1	5.6%	7	8.6%	3	13.6%	0	0.0%	4	30.8%			

表5は、学生の読譜に関する意識調査を表したものである。147名の学生にどの程度楽譜が読めるかを5段階で設問した結果、全体を見るとNo.4の「わりに読める」が46.9%とNo.5「かなり読める」が10.2%合わせて半数以上の学生が読めると認識している。ピアノ習熟度別から見ると習熟度の高い学生ほど「楽譜は読める」という意識が高い。このことは、表4の結果からも分かるように「習い事」が読譜力の意識と大いに関連が深いことが分かる。つまり「習い事」で楽譜を覚えたということである。

3 うたの習得方法

学生はどのような方法で歌を覚えたかについて、表6「歌いたいと思う歌の覚え方」、表7「学校の音楽の授業の歌の覚え方」、表8「発表会での歌の覚え方」(学校行事としての合唱やコンクール)の3項目で設問し、学生の実態と意識度調査を実施した。意識度は、個人としての意識(表6)、授業の中での意識(表7)、総合表現活動における意識(表8)として学生のうたの習得方法に関する意識度を捉えた。

表6 歌いたいと思う歌の覚え方(複数回答可)

No.	対象 方法	全体 147人		ピアノ習熟度別												
		人数	比率	経験なし 18人	バイエル 81人	ブルグ 23人	ソナチネ 13人	ソナタ 13人	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1	楽譜を階名唱	23	15.6%	0	0.0%	12	14.8%	3	13.6%	2	15.4%	6	46.2%			
2	音源CDを聴く	139	94.6%	17	94.4%	76	93.8%	20	90.9%	13	100.0%	12	92.3%			
3	友達が歌うのを	43	29.3%	4	22.2%	27	33.3%	7	31.8%	1	7.7%	4	30.8%			
4	楽器で音をとる	20	13.6%	0	0.0%	6	7.4%	3	13.6%	4	30.8%	7	53.8%			
5	独学で	3	2.0%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	1	7.7%	1	7.7%			
6	その他	3	2.0%	0	0.0%	2	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%			

表6は、自分が歌いたいと思う歌をどのように覚えたかを表にしたものである。94.6%の学生がCD

やMDの音源、テレビ、携帯、パソコンなどの音源を聴いて覚えている。さらにこれをピアノ習熟度別にみると、ピアノの習熟度に関わらず、音源で聴き覚えるという学生が多くみられた。特に「ソナチネ程度」の学生は、100%の学生が音源を聴いて覚えている。

「経験なし」「バイエル程度」「ブルグミュラー程度」の学生は、友達が歌うのを聴いて覚え、読譜して覚えることは少ないことがわかる。「ソナチネ程度」「ソナタ以上」の学生は、ピアノなどの楽器で音を取っている。特に「ソナタ以上」の学生は、楽器で音を取り、楽譜を階名唱することによってうたを覚えている。独学でうたを覚える学生は、わずかであった。

これらの結果、現在の学生達のほとんどは、CD・MDなどの音源から聴き覚えるという実態が明らかになった。

次に、学校の音楽の授業では、どのようにうたを覚えたかは表7の通りである。

表7 学校の音楽の授業の歌の覚え方(複数回答可)

No.	対象 方法	全体 147人		ピアノ習熟度別												
		人数	比率	経験なし 18人	バイエル 81人	ブルグ 23人	ソナチネ 13人	ソナタ 13人	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1	楽譜を階名唱	47	32.0%	1	5.6%	25	30.9%	7	32.0%	6	46.2%	8	61.5%			
2	音源CDを聴く	77	52.4%	11	61.1%	43	53.1%	10	45.0%	6	46.2%	7	53.8%			
3	友達が歌うのを	32	21.8%	2	11.1%	24	29.6%	3	14.0%	1	7.7%	2	15.4%			
4	楽器で音をとる	19	12.9%	1	5.6%	5	6.2%	4	18.0%	1	7.7%	8	61.5%			
5	先生が歌うのを	131	89.1%	15	83.3%	75	92.6%	19	86.0%	10	76.9%	12	92.3%			
6	その他	1	0.7%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%			

表7は「先生が歌うのを聴いて覚える」という学生は89.1%であり、次いで「音源CDを聴く」学生は52.4%であった。これは、学生が自主的に覚えようとするのではなく、常に第三者や音源に頼って覚えているという現状をみることができる。

ピアノ習熟度に関係なく、先生が歌うのを聴いて覚えている。特に「ソナタ以上」の学生は、楽器を使って音を取り、楽譜を階名唱することもしている。表6・表7から学生のほとんどは、CD・MDなどの音源から聴き覚え、先生が歌うのを聴いて覚え、友達が歌うのを聴いて覚えるという結果であった。

さて、発表会では、どのようにうたを覚えたかについては表8の通りである。

表8 発表会での歌の覚え方(複数回答可)

No.	対象 方法	全体 141人		ピアノ習熟度別									
				経験なし 18人		バイエル 81人		ブルグ 23人		ソナチネ 13人		ソナタ 13人	
		(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)
1	楽譜を階名唱	39	27.7%	3	16.7%	18	22.2%	5	22.7%	8	61.5%	5	38.5%
2	音源CDを聴く	113	80.1%	12	66.7%	66	81.5%	14	63.6%	11	84.6%	10	76.9%
3	友達が歌うのを	39	27.7%	4	22.2%	27	33.3%	4	18.2%	1	7.7%	3	23.1%
4	楽器で音をとる	37	26.2%	3	16.7%	18	22.2%	6	27.3%	7	53.8%	3	23.1%
5	先生が歌うのを	98	69.5%	13	72.2%	59	72.8%	11	50.0%	6	46.2%	9	69.2%
6	その他	1	0.7%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表8は、「音源を聴いて覚える」という学生は80.1%であり、次いで「先生が歌うのを聴いて覚える」という学生は69.5%であった。これも、学生が自主的に覚えようとするのではなく、常に第三者や音源に頼って覚えているという現状をみることができる。

ピアノ習熟度別でみると、ピアノ初心者は、「先生が歌うのを聴いて覚える」という学生が多くみられ、初級者以上の学生は、音源を聴いて覚えている割合が多くみられる。

表6・表7・表8から共通して読み取れることは、音源を聴いて覚え、先生や友達が歌うのを聴いて覚えるという学生が大多数である。これは、小学校・中学校・高等学校の音楽の授業の中で、自分で読譜し音として表現することが少なかったためと思われる。このことは、学生が保育者として必要な音楽を表現する力を発揮するに至らないことは明確である。

B. 第2回アンケート調査

A. 第1回アンケート調査は、現状の学校教育におけるひずみと学生の音楽の学習方法に対する問題点が見えた。特に保育者を目指し入学してきた学生の殆どが楽譜の読み方、歌の覚え方に関してMDなど機器や先生、友達から聴いて習得するという極めて受動的なものであった。このことは、音楽を親しむ方法として決して否定するものでない。しかし、将来学生が、子どもと一緒に歌ったり、演奏したり様々な音楽活動を通して音楽の楽しさや喜びを伝えることはこのままでは出来ない。そのためには、保育実践に必要な音楽の知識や技能の習得が絶対的に必要である。その基本となる楽譜の知識「読譜力」の習得が必要不可欠である。つまり学生自らが楽譜を読み、弾き歌う技能の獲得こそが、学生に求められる課題である。

そこで、我々が半年間取り組んだ音楽授業について以下に報告する。

「基礎音楽」の授業は、子どもの音楽活動を表出させるため、鍵盤楽器の学習を通して実践的な音楽技術の習得と豊かな音楽の表現法の獲得を目標としている。本講座は、MLによるピアノの個人レッスンと集団授業である。学校指定のテキストを使用し、年間目標に準じ学生は課題曲を習得する。鍵盤ソルフェージュ、アンサンブル、簡易伴奏法、幼児歌曲の弾き歌いなどを学ぶ授業である。

本講座の「幼児歌曲の弾き歌い」に重点を置き、学生の読譜力に授業改善を行った。その手始めに、全員で楽しく歌うことを実施した。人前で声を出すことは恥ずかしいという思いを取り外すことが、第一の目標である。「歌う」こと「声」を出すことは、「楽しい」という「体験」である。学生は身体が解放されれば、声も出るようになり、唇も動くようになる。ここでは、誰もが歌える曲、特にピアノ初心者には抵抗なく歌える曲を選択することを重視した。

これは、学生に楽譜を読むことへの抵抗感を失くすためである。簡単な歌や短時間で覚えらるる歌、ピアノがなくても直ぐ歌える曲を多く準備して、学生が自然に楽譜に親しめるように工夫を試みた。楽しく「歌う」ことは、人間の奥底に眠っていた感情の発露であり、これこそ、人間が音楽をすることの喜びである。つまり、学生には、喜びを経験してもらい、人前で声を出すことは、喜びに繋がることを経験してもらいたいのである。そこから、声を出して楽譜を読むことの抵抗感をなくすことを出発とした。毎回「弾き歌い」の授業では、必ず「ドレミ・・・」と声を出し「階名唱」練習や「歌詞唱」「リズム唱」などを取り入れ楽しんだ。ここでのキーワードは「声を出す」「楽しむ」「自発性」であり、教師側は、学生が主体的に実践に参加できるプログラム作りが重要であろう。

さて、「音楽理論」の授業では、15回の講義を45分ずつ2クラス入れ替え制で行った。「理論の分野」では、音楽を楽しむために、音と楽譜の基本的なルールを習得し、音そのものの性質を知ることを目指した。また、「リトミックの分野」では、リズムあそびを通して音楽と身体の動きを融合させることにより、心と身体的一致・調和を促し音楽的センスを培うことを目指した。

音楽は感覚的な要素が強いため、「楽譜を読む」「楽譜を書く」という知識を学ぶことは非常に困難であるとも言われている。300年以上前から、さま

ざまな時代や人々の手によって少しずつ変化してきた楽譜を読む能力は、保育者養成の中では必要不可欠だと考えられる。

以上各授業における読譜を読むための授業方法について述べた。そこで、前期上記のような講義、実践授業を受けた学生が、果たしてどの程度、音楽に関しての意識、認識度に変化をもたらしたかを調査するため、第2回アンケートを実施した。下記にその結果を報告する。

平成19年10月上旬に学生の音楽・楽譜に関する認識度調査を実施し、学生の音楽意識変化を探った。

質問の趣旨は、入学半年たった学生が前期より音楽に取り組む意識がどの程度変わったかを6項目の設問で調査した。

- ①ピアノ習熟状況 ②ピアノ練習状況
- ③読譜に関する意識 ④ピアノに対する意識
- ⑤歌に対する意識 ⑥自由記述

上記の6項目を下記の4分野に分けて報告する。

- 1 ピアノ習熟度とその練習方法 (①、②)
- 2 楽譜の認識度変化 (③)
- 3 ピアノと歌に対する意識変化 (④、⑤)
- 4 自由記述より (⑥)

1 ピアノ習熟度とその練習方法

下記の表9は「バイエル習熟状況」を頻度分布で表したものであり、表10は、「中級・上級者ピアノ習熟状況」として「ブルグミュラー程度」「ソナチネ程度」「ソナタ程度以上」を第1回目調査と第2回目調査を比較参考にして表したものである。

表9 半年後のバイエル習熟分布

バイエル	頻度分布	人数(比率)
	50 - 59	1 (0.9%)
	60 - 69	9 (8.5%)
	70 - 79	16 (15.2%)
	80 - 89	20 (19.0%)
	90 - 99	23 (21.9%)
	100 - 104	36 (34.2%)
	計	105

表10 半年後の中級・上級者ピアノ習熟状況

対象	調査・人数	第1回目(147人)	第2回目(147人) (複数回答)
		人数(比率)	人数(比率)
経験なし、バイエル程度		99 (67.3%)	105 (71.4%)
ブルグミュラー程度		22 (15.0%)	63 (42.8%)
ソナチネ程度		13 (8.8%)	20 (13.6%)
ソナタ程度以上		13 (8.8%)	16 (10.8%)

この表9、表10からは、確実に学生達の音楽する力(ピアノを弾く)が着いてきていることは明らかである。

また、表9は、特筆すべきことがある。それは、バイエル70番以上の学習者が105名中95名もおり、この事実は、初心者、初級者が如何に真剣にピアノに取り組んで努力して精進している証であろう。

バイエルの習熟度の高い(90番-104番)段階の学生が全体の147中59名(55.1%)もおり、第1回目調査より習熟度の度合いが高く学生の進捗状況は良好と思われる。例年、バイエルで「つまずく」バイエル80番台は非常に難しく初心者学生には難所である。しかし80番以上に挑戦している学生が、147人中79人(75.1%)いるという状況に少し期待感が出てきた。第1回目の調査では全くピアノ経験なしの学生が18人とあった。しかし表9を見る限り50番以上の領域に26名の学生がいるが、各段階で十分に努力して練習に取り組んでいることが伺いしれる。さて、表10は中級・上級者ピアノ習熟状況である。前期調査と比較してみると、「ブルグミュラー程度」の学生の努力がこの数字の変化を見て明らかである。第1回目調査では22名(15.0%)であったが、第2回目調査では63名(42.8%)の学生が進級した24.8%増というである。ことは、バイエル修了者の数字がここに結果として表れたと思われる。

第1回前期調査では22名(15%)とあったが、今2回目調査では、63名(42.8%)の学生が取り組んでいる。これは著しい進級度である。ソナチネ・ソナタ以上の上級者グループにも学生のピアノ技術習得の向上がみられた。以上第1回調査時より今2回目調査において学生のピアノ習熟度の割合が確かな成果として表れていたことは、益々学生に「やる気」を出させる指導の工夫が我々教師に求められるものであろう。我々の取り組みにバイエルのレッスンがある。

これは、まだ、東海地方では、2年時の就職試験においてバイエルを採用している現場が多くあり、養成校側としてこれを放置することはできない。その対策として80番以上をピアノの習熟度に関係なくバイエルを課題として取り入れているのが実状である。

表9、表10の結果は、初心者・初級者・中級者の頑張り、バイエル習熟状況によい結果を出したと思われる。また、バイエル、ブルグミュラー程度の学生の頑張り、ピアノ習熟度の高いソナチネ、ソナタ以上の学生にもよい影響を与えた。反対の場合

が普通であろうが、今入学生においては、習熟度に関係なく学生同士の「やる気」が互いの相乗効果をもたらした。しかし、昨今の社会事情同様、養成校へ入学してくる学生の多くがバイトに忙しくピアノの練習には苦慮しているようである。

表11 入学半年経ってあなたのピアノ練習方法は、どのように変わりましたか

No.	対象 覚え方 の方法	全体 147人		ピアノ習熟度別									
		(人数)	(比率)	経験なし 18人		バイエル 81人		ブルグ 22人		ソナチネ 13人		ソナタ 13人	
				(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)
1	自分で楽譜を読んで覚える	99	67.3%	6	33.3%	54	66.7%	15	68.2%	11	84.6%	13	100.0%
2	音源CDを聴いて覚える	7	4.8%	1	5.6%	4	4.9%	1	4.5%	1	7.7%	0	0.0%
3	先生や友達に弾いてもらい覚える	36	24.5%	9	50.0%	21	25.9%	5	22.7%	1	7.7%	0	0.0%
4	その他	5	3.4%	2	11.1%	2	2.5%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%

そこで、表11では、「半年経ってあなたのピアノの練習方法は、どのようにかわりましたか」と問うたものである。第1回目の調査では、学生は、音楽の習得レベルに関係なく「MD、先生、友達に聴いて覚える」と回答する学生が殆どであったことを報告した。表11では、「経験なし」以外「バイエル程度」「ブルグミュラー程度」「ソナチネ程度」「ソナタ以上」はNo.1の「自分で楽譜を読んで覚える」と回答しており、表11からは、全体的に見れば147人中99人の約7割の学生が1の「自分で楽譜を見て覚える」と申告している。これは、我々が取り組んだ授業改善が効果を与えたと思われる。バイエル程度66.7%、ブルグミュラー68.2%、ソナチネは84.6%、ソナタ以上の学生は全員100%が自分で楽譜を見るとあった。未経験者の半分はまだ先生や友達に教えてもらおうとあるが、約3割の学生が自分で楽譜から覚えるとある。全く音楽に慣れ親しんだ学生でないが前向きな学びの姿勢がこの調査から改めて分かり、授業への取り組みの工夫の重要性を思い知らされた。

やはり、「楽しく学ぶ」「出来る喜び」を味わう経験、これは、「楽」は決して学習しなくてよいというのではない。学ぶことが楽しいと感じられる授業を工夫し、学生の学ぶ意欲、琴線に触れる授業を考える必要がある。

さて表11ではピアノの練習方法で学生は「自分で楽譜を読んで覚える」といった主体性の回答をしている。では表12では、「あなたは、半年経って楽譜が読めるになりましたか」と問いかけものである。

2 楽譜の認識度

表12 入学半年経って楽譜が読めるようになりましたか

No.	対象 読譜力 について	全体 147人		ピアノ習熟度別									
		(人数)	(比率)	経験なし 18人		バイエル 81人		ブルグ 22人		ソナチネ 13人		ソナタ 13人	
				(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)
1	ほとんど読めない	2	1.4%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%
2	あまり読めない	9	6.1%	6	33.3%	3	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	少し読める	30	20.4%	10	55.6%	20	24.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	わりに読める	82	55.8%	2	11.1%	51	63.0%	15	68.2%	11	84.6%	3	23.1%
5	かなり読める	24	16.3%	0	0.0%	6	7.4%	7	31.8%	2	15.4%	9	69.2%

表11では「楽譜読んで」覚えると回答した学生が表12「読めますか」と問われ、「余り読めない」と回答していた。簡単に学生が「読めない」ときめつけてはならない。なぜなら学生はテンポがゆっくりであれば、楽譜を読めるからである。つまり「意識は読める」であるが、今現在は人と同じテンポにはついていけないから「読めない」と回答しているだけの学生が多いと推察する。

特に「経験なし」の学生に大きな変化見られた。前期には「ほとんど読めない」「あまり読めない」の学生が50%以上であったが、後期には、「少し読める」「わりに読める」を合わせて、66.7%が前向きな回答している。バイエル、ブルグミュラー、ソナチネレベルの学生は全部「わりに読める」を第1位に回答していた。また、ソナタ以上学生は「かなり読める」と約7割の学生が読譜に自信を持っているのがよくわかった。ただ、ソナタ程度の一人の学生が「ほとんど読めない」と回答しているのが気になることである。

3 ピアノとうたに対する意識

表13 入学半年経ってピアノを弾くことが好きになりましたか

No.	対象 ピアノを 弾くこと	全体 147人		ピアノ習熟度別									
		(人数)	(比率)	経験なし 18人		バイエル 81人		ブルグ 22人		ソナチネ 13人		ソナタ 13人	
				(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)	(人数)	(比率)
1	好きになった	35	23.8%	3	16.7%	21	25.9%	4	18.2%	3	23.1%	4	30.8%
2	少し好きになった	53	36.1%	4	22.2%	31	38.3%	11	50.0%	6	46.2%	1	7.7%
3	普通	33	22.4%	10	55.6%	17	21.0%	2	9.1%	1	7.7%	3	23.1%
4	嫌いになった	4	2.7%	1	5.6%	2	2.5%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
5	変わらない	22	15.0%	0	0.0%	10	12.3%	4	18.2%	3	23.1%	5	38.5%

表14 入学半年経ってあなたは歌うことが好きになりましたか

No.	対象 歌うこと	全体 147人		ピアノ習熟度別									
		(人数)	(比率)	経験なし 18人	(比率)	バイエル 81人	(比率)	ブルグ 22人	(比率)	ソナチネ 13人	(比率)	ソナタ 13人	(比率)
1	好きになった	63	44.7%	9	50.0%	34	42.0%	11	50.0%	5	38.5%	4	30.8%
2	少し好きになった	30	21.3%	3	16.7%	17	21.0%	4	18.2%	3	23.1%	3	23.1%
3	普通	34	24.1%	3	16.7%	21	25.9%	6	27.3%	2	15.4%	2	15.4%
4	嫌いになった	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%
5	変わらない	19	13.5%	3	16.7%	9	11.1%	1	4.5%	2	15.4%	4	30.8%

さて、この項ではピアノと歌に対する意識について表13の「入学半年経ってピアノを弾くことが好きになりましたか」表14「入学半年経って歌うことが好きになりましたか」とピアノと歌についてについて問うたものである。表13は、「経験なし」の学生が「好きになった」(16.7%)、「少し好きになった」(22.2%)、「普通」(55.6%)を合わせると94.5%の学生は嫌いではないと回答している。ピアノの未経験者であった学生は、ピアノに一番不安を感じていたに違いない。習熟度の高い友達が大量にいる中で、この回答は、我々の取り組みが功をなしているかも知れない。また、ピアノ習熟度別を「少し好きになった」と「好きになった」を一緒に合わせると「バイエル」(64.2%)、「ブルグミュラー」(68.2%)、「ソナチネ」(69.2%)の3つのグレードで殆ど60%以上が「好き」とすると肯定的な受け止め方をしていいる。なお、習熟度の高い「ソナタ」の学生は、当然前から弾くことが「好き」と受け止め「変わらない」(38.5%)と回答したのかもしれない。この「変わらない」は肯定的な意見として受容できる。本当に「好き」が(30.8%)と回答している。この2つを合わせると(69.3%)になる。表14の「半年経ってあなたは、歌うことが好きになりましたか」と問うた。「経験なし」「ブルグミュラー」では、50.0%の学生が「好き」と回答している、「バイエル」では、(42.0%)が「好きになった」と回答している。ここで、「ソナタ」の「好き」「変わらない」がともに(30.8%)であると回答している。全くピアノの同じで回答している。この2つの設問は学生自身が自分でしないと完成しない音楽活動である。ここから見えることは、学生はこの半年経て音楽をすることが楽しいと感じているのが、よく分かった。楽しいから好きになるのではないだろうか。歌い弾けたときの達成感を今後も多く経験してもらい

たい。

4 自由記述より

さて、次に学生が半年間音楽の授業を通して色々学習の中で感じたこと、思ったことを自由に書き出したものである。学生の本音が見事に述べられている。

表15 学生自由記述より

ピアノ経験なし ①読譜力—苦手
自身の成長がわかる。友達よりは弾けないが、練習すると弾けるので自信がついた 練習すれば自分もピアノが弾けることがわかって嬉しかった 曲が弾けると楽しくなってもっと色々な曲が弾きたくなった テストでピアノを弾いて自分も弾けるんだと自信がついた コードは難しい ピアノの個人レッスンは自分のできる範囲を見てもらえてよい 歌の時間ももう少し欲しい 全員で弾く弾き歌いのピアノのテンポをもう少し遅くしてほしい 初心者にはピアノの練習は難しいが、楽典講義はためになるので好きです 先生からの的確な指導とアドバイスが、ピアノの自信につながり意欲がでた 自分で楽譜を読んでバイエルが弾けるようになり自信がついた 以前よりリズムが取れるようになった 指導の進み具合が早いのでついていくのがやっとなのである ピアノが以前より身近なものとなった 弾き歌いのテストは人前でするのでその難しさをした まだ十分ではないが、ピアノの練習に重点をおくようになった もっと沢山の弾き歌いの曲が弾けるようになりたい 毎週の弾き歌いの課題が自分のレベルでは難しい 最初のころより音符が読めるようになった
バイエル ②読譜力—余り読めない
バイエルが自信を持って弾けるようになった ピアノがまだ自信がもてない 4月よりがんばろうという気持ちになった まだ自信がもてない 人前でピアノを弾くのはまだ自信がもてない 友達ができて自分が弾けないと不安 ピアノのバイエルを早く終了して次のブルグに進みたい 授業がわかりやすい まだ自信はないが弾けると楽しい なるべくピアノに触ろうとする意識ができた 現状は練習量がすくない気がする 弾き歌い 弾き歌いができるようになりたい 歌うことが大好きになった 自信が出てきた 以前は歌っているふりをしていたが 音程をとる方法の言葉がけがわかりやすかった 自分の知らない幼児曲を沢山覚えることができた 歌うことが大好きになった もっと沢山歌をうたいたい
バイエル ③読譜力—少し読めた
音楽の専門用語がよくわからない 幼児曲の弾き歌いが難しい 音楽が楽しくなってきた 音楽に対する考え方が変わった。自分が楽しく音楽することが自信につながる ことと思った 弾き歌いができるようになってピアノが楽しくなったが人前で弾く自信がまだも てない 人前で弾く自信が欲しい 楽譜 笑顔で歌うことを知って声を出す楽しさをしました 以前少し読めるようになった 音楽が好きになった 4月は全く楽譜が読めなかった 10月にはある程度読めるようになった 音符が読めるようになったが音楽記号で迷うことがある コード 色々なコードの曲を弾きたい

<p>バイエル ④読譜力一割に読める</p> <p>練習すれば自分もきれいに弾けるようになり自信ができた ピアノが前より楽しい 弾きながら歌えるようになって前より積極的に自宅練習するようになった 理論の授業をもう少し回数を増やして欲しい 入学前より練習量が多くなったが、弾き歌い難しい。たくさん練習しているが、自信ができました。練習すればするほど上手になることがよくわかった 先生方の歌を聴いて私ももっと上手に歌えるようになりたい。 個人レッスンの時間を増やしてほしい ピアノ経験があっても楽典が忘れてることが多いのでもっと時間をかけて欲しい ピアノを弾くこと、弾き歌いに対する抵抗感がなくなった・もっと声楽を中心とした授業がほしい 発声の練習を時間かけて欲しい 幼児曲をみんなでたくさん歌いたい 授業はいつも緊張する 練習をしないとついていけない、まだ自信がもてない テストは緊張する ピアノをしないといけないと追い込まれている 先生方が一人一人ピアノのレッスンをしてくれてよい 毎週の課題曲の練習がついていけない 前より丁寧に弾く自信がついた。弾き歌いができるようになりピアノが楽しくなってきた 以前より楽譜を覚えるのが早くなりピアノが楽しくなった 子供の時歌ったうたを沢山弾けるようになれるとうれしい ピアノが前より弾けるようになり楽しくなった 本番のテストに弱いからあまり自信が持てない 授業が大変楽しい、ピアノは自信ないけれどピアノが大好きになりました 試験を重ねるごとに少しずつ自信がもてるようになった 毎時間の練習が確実に多くなった 練習時間を作り出すのに苦労している。</p>
<p>バイエル ⑤読譜力かなり読める</p> <p>歌の練習の時間が多いのがとてもよい 個人レッスンの時間が少ないが適切なアドバイスをもらえる コードが少し理解できる 発声の方法がわかった 練習量が増えた 毎週ピアノの個人レッスンでなく1週おきにしてほしい 先生は大変丁寧に教えて下さるのでうれしい 楽典の時間を増やしてほしい</p>
<p>ブルグミュラー程度</p> <p>入学時より楽しくピアノが弾けるようになった ピアノが好き、友達の弾くのを聴いて自分も弾けるようになりたいと思う 一人一人のペースでレッスンが受けられるのでよい ピアノへの気持ちがつよくなった 入学前より自信ができた レッスン時間を長くしてほしい 自信はまだですが音楽することが楽しくなった 曲のレパートリーが増え嬉しい 試験等前で弾く機会が増え少し自信がついた 弾き歌いが楽しくなった 楽典はしっかり覚えなないといけないと思った 楽典は難しい ピアノ試験で自分の甘さをした 先生方は大変熱心に指導して下さるので自宅練習も真剣に取り組もうとおもった 弾き歌いで歌のレッスンもあり将来役立つと思った 人前で発表する難しさを経験して自分の未熟さを自覚した ピアノは好きな曲ばかりをしてきて基礎の大切をした 歌の授業があり、自信がついて楽しくうたえ声ができるようになった ピアノを弾く姿勢がよくなった 歌うことが好きになった 先生の話声や歌う声がきれいなのでイメージしやすい 一対一のレッスンは学びやすいが、時間が短い 童謡を弾くようになり自宅でも弾くことがおこなった 発声を覚えてもらい以前より声ができるようになった 今まではピアノに向っているだけであったが、楽しく弾くことを覚えた 音符に強弱をつけひくだけであったのが、曲奏の意味も調べるようになって弾くことを覚えた 沢山の曲が弾けるようになりたい 上手な友達に影響され、私ももっと頑張ろうという気持ちになった</p>

<p>ソナチネ程度</p> <p>人前で弾くのは少し抵抗があるが、段々友達の前で弾けるようになった 曲を仕上げる時間が1週間でたりない 歌を歌ってのどを鍛えたい 前よりピアノを弾くのが好きになった 弾き歌いが苦手であったが好きになった ピアノに関しては自信が持てるようになったが、弾き歌いがなかなかできません 集団の弾き歌いはついていくのが難しい。個人レッスンにしてほしい。ピアノの個人レッスンは嬉しい 弾き歌いが苦手になった。恥ずかしいから 童謡は楽しく弾くことが大切だとわかり自信を持って弾けるようになった 入学前より練習時間が増えて復習もするようになった 個人レッスンの時間が長くしてほしい ピアノのレベル格差が大きい 楽典の時間を多くと少しゆっくり教えてほしい 授業以外の時間も音楽に触れることが多くなった、楽譜を探したり、専門的なことを調べたり 歌が苦手なので週1の授業では少ない 入学前にピアノ経験があったが自分より上手な子が多く自信がもてない でもピアノの弾き歌いが楽しくできるのが大切とわかった</p>
<p>ソナタ程度</p> <p>歌が苦手である 楽譜通り弾いても楽しみながら弾かなければ意味がないことがわかった もともとピアノが大好きであったのがさらに好きになった 幼児曲の弾き歌いはただピアノ弾くことではなく子供のことをイメージして弾くことが大切だとわかりました 弾き歌いは楽しい、大好きになりました。ピアノは心をこめて弾きたい 歌うことがこの授業でもっと好きになりましたので、弾き歌いを授業でたくさん取り入れて欲しい 入学前に弾き歌いを練習した経験がなかったのでできるようになって嬉しい みんなと一緒に歌うことが楽しい 弾き歌いが恥ずかしくなくなった 音に重みができるようになった</p>

まとめにかえて

保育者養成校に携わる筆者達は、学生の音楽資質向上に向けて、授業内容や教材研究の検討のために1年生に2回のアンケート調査を実施した。

その結果、音楽を覚える方法は、ピアノの経験の有無に関わらず楽譜を読んで音楽を自分に取り入れる学生は少なく、CDなどの音源を聴いて覚える学生が多いという結果が見られた。

また、音楽経験が長い学生であっても、音楽を聴いて覚えることはするが、楽譜を読んで覚える学生は少なかった。これは、必ずしも学生の音楽経験が楽譜を読み取る力とはされておらず、音楽経験と基礎知識は同一化されていないと思われる。

保育者として必要とされる資質や音楽力は、豊かな感性を持って子どもの発達を理解し、子どもの発達段階に応じた表現活動の援助である。

子どもの音楽の表現活動の多くは、歌をうたったり楽器で演奏したりすることである。保育現場で子どもが歌ったり楽器で演奏したり、音を鳴らしたりして遊ぶ援助には必ず楽譜を必要としないが、的確な音楽表現活動としての遊びの援助をするためには、

音楽の基礎知識が必要とされる。

音楽は本来、聴くことによって心が開かれるものである。音楽を聴いて楽しくなったり、癒されたりするには楽譜などの知識は必要としない。しかし、子ども達と音楽の楽しさや表現することの喜びを共有するためには、音楽の基礎知識を持って子どもへ音楽の援助をすることである。それは、音やリズムに対してイメージを描き、そのイメージからの身体表現が求められる。

本調査において、楽譜を読み取るために必要な音楽の基礎知識が不足している学生は多いものの、うたうことや表現をすることは好きである学生が多かった。このことは、楽譜を読んで音楽を感じたりイメージすることは苦手としているものの、第2回のアンケートに見られるように、ピアノの経験の有無によらないで、「自分も練習をすれば出来る」、「友達が弾いている曲を弾いてみたい」などの自己を客観的に捉えたり、友達の演奏からイメージを持つなどの成果を見ることが出来た。特に、自身の成長が分かりそれが自信となり意欲につながっている。単に弾いて歌うという技能の向上ばかりでなく、音楽に対する認識の変化を見ることが出来た。

近年、カリキュラムの改正などで基礎技能の音楽関係の授業が少なくなり大変厳しい状況下にある。一方、家庭のピアノはピアノから電子ピアノの購入をする学生が増えている。音の環境的な問題を考えるとやむをえないとはいえ、ヘッドフォンからの音を聴いての練習は、イメージを描くということには難しい点も考えられる。

このような状況下において、短期大学の2年間での音楽経験において、学生自身の心を豊かにし子ども心の教育に通じるための基礎技能の授業は、技能の習得にとどまらず、実践できる音楽力としての表現力を修得するための授業内容につとめることである。

本研究は、継続して今後も学生の動向と指導の研究を行うものである。

このアンケートは、皆さんが大学・短期大学入学までの音楽経験の中で、音楽の楽譜に関する知識がどの程度培われているのかを調査し、教員養成・保育者養成に必要な教育内容を検討する資料とするものです。小・中学校等の音楽の授業で学んだこと、クラブ活動や学校外での習い事、そして楽譜の知識などについて質問しますので、よく考えてありのままをお答え下さい。結果は、コンピュータによって統計的に処理されますので、あなた一人の回答のみを問題にすることや、公表することは一切ありません。

なお、アンケートは、○印をつける質問、順位を点ける質問、自由に記入する質問等で構成されています。それぞれの項目の指示にしたがってお答えください。ご協力をお願い致します。

全国大学音楽教育学会中部地区学会

はじめに、以下についてご記入ください。

性別 1 男性 2 女性

1-1. あなたは、大学入学前にピアノを習った経験がありますか。

1 ある 2 ない

-2. 1-1で「ある」に○印をつけた方にお尋ねします。大学入学までにピアノはどの程度、弾けましたか。該当する数字に○印をつけてください。

1 バイエル程度 2 ブルグミュラー程度 3 ソナチネ程度 4 ソナタ以上

2-1. あなたは、ピアノ以外に演奏できる楽器がありますか。

1 ある 2 ない

-2. 2-1で「ある」に○印をつけた方にお尋ねします。どのような楽器が演奏できますか。演奏できるものを全て記入してください。また、グレード取得級など具体的に書ける方は記入してください。

※ 小・中・高等学校で取り上げられた鍵盤ハーモニカやリコーダーは含みません。

例 (エレクトーン ヤマハ・エレクトーングレード6級)

3. あなたは、うたいたいと思う歌をどのような方法で覚えますか。該当する番号に○印をつけて下さい。(複数可)

- 1 楽譜をドレミで読んで覚える
- 2 CDやMD、テレビ、携帯、パソコン等の音源を聴いて覚える
- 3 友達が歌うのを聴いて覚える
- 4 メロディーの音を楽器で弾いて覚える
- 5 独学して覚える
- 6 その他 ()

4. あなたは、楽譜を読んで新しい歌や知らない歌を歌うことがありますか。該当する番号に○印をつけて下さい。

1 ほとんどない 2 あまりない 3 時々ある 4 よくある 5 いつもある

5. あなたは、学校(小・中・高校)の音楽の授業でどんなことを習いましたか。よく学んだ内容順に番号をつけてください。学んだ記憶のないものは空欄にしてください。

例：(1) 歌・合唱、(2) 楽器の演奏、(3) 鑑賞、(4) 音楽理論、() 創作、() 音楽の歴史、() その他

() 歌・合唱、() 楽器の演奏、() 鑑賞、() 音楽理論、

() 創作、() 音楽の歴史、() その他

6. あなたは、学校(小・中・高校)の音楽の授業で歌をどのように覚えましたか。該当する番号に○印をつけて下さい。(複数可)

- 1 楽譜をドレミで読んで覚えた。
- 2 CDやMDなど元になる音源を聴いて覚えた。
- 3 友達が歌うのを聴いて覚えた
- 4 メロディーの音を楽器で弾いて覚えた
- 5 先生が歌ったり弾いたりするのを聴いて覚えた
- 6 その他 ()

7-1. あなたの学校(小・中・高校)では、学校行事として合唱の発表会やコンクール等がありましたか。

1 あった 2 なかった

-2. 7-1で「あった」に○印をつけた方にお尋ねします。その時に歌った曲は、どのようにして覚えましたか。該当する番号に○印を付けてください。(複数可)

- 1 楽譜をドレミで読んで覚えた
- 2 CDやMDなど元になる音源を聴いて覚えた
- 3 友達が歌うのを聴いて覚えた
- 4 メロディーの音を楽器で弾いて覚えた

- 5 先生が歌ったり弾いたりするのを聴いて覚えた
- 6 その他 (_____)
8. あなたは、高等学校で音楽を選択しましたか。
- 1 はい 2 いいえ
- 9-1. あなたは、吹奏楽部や合唱部など音楽系のクラブに所属したことがありますか。
- 1 はい 2 いいえ
- 2. 9-1の「はい」に○印をつけた方にお尋ねします。どのような音楽系のクラブに所属していましたか。
- 小学校 (_____)
- 中学校 (_____)
- 高等学校 (_____)
10. あなたは、楽譜が読めますか。該当する番号に○印をつけて下さい。
- 1ほとんど読めない 2あまり読めない 3少し読める 4わりに読める
- 5かなり読める
11. あなたは、楽譜の読み方を主にどこで覚えましたか。該当する番号に○印をつけてください。(複数可)
- 1 小学校の授業で覚えた
- 2 中学校の授業で覚えた
- 3 高等学校の授業で覚えた
- 4 部活で覚えた
- 5 習い事で覚えた
- 6 友達に教えてもらった
- 7 独学して覚えた
- 8 その他 (_____)
- 12-1. あなたは、楽譜にわからない標語や記号があった時どうしますか。
- 1 調べる
- 2 調べない
- 3 気にとめない
- 4 気がつかない
- 2. 12-1の「調べる」に○印をつけた方にお尋ねします。どのように調べますか。該当する番号に○印をつけてください。(複数可)
- 1 先生に聞く
- 2 友達に聞く
- 3 本や辞書で調べる
- 4 その他 (_____)
- 13-1. あなたは、コードネームを知っていますか。
- 1はい 2 いいえ
- 2. 13-1の「はい」に○印をつけた方にお尋ねします。コードネームを主にどこで覚えましたか。該当する番号に○印をつけてください。(複数可)
- 1 小学校の授業で覚えた
- 2 中学校の授業で覚えた
- 3 高等学校の授業で覚えた
- 4 部活で覚えた
- 5 習い事で覚えた
- 6 友達に教えてもらった
- 7 独学して覚えた
- 8 その他 (_____)

ご協力ありがとうございました。

教科目の教授内容 科目名：基礎技能（演習4単位）
<p data-bbox="185 286 252 315">目 標</p> <p data-bbox="185 338 1353 472">1：保育の内容を理解し展開するために必要な知識や技能を修得させる。</p> <p data-bbox="185 394 1353 472">2：音楽および造形に関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得させる。</p>
<p data-bbox="185 548 252 577">内 容</p> <p data-bbox="185 600 550 629">1：音楽に関する基本的な知識や技能</p> <p data-bbox="209 656 1173 842">(1) 楽譜を読むために必要な基本的な知識</p> <p data-bbox="209 707 959 736">(2) 歌い、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識や技能</p> <p data-bbox="209 763 722 792">(3) 様々な音楽活動を通しての楽しさや喜びの経験</p> <p data-bbox="209 819 1173 848">(4) 子どもの歌、簡易楽器、ピアノなど器楽による伴奏法など保育実践において必要な知識や技能</p>